



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

盛会となったオンライン国際シンポジウム

はじめに

コロイドおよび界面化学討論会では、日豪シンポジウム、Western Pacific Colloids Meeting、日台コロイド学会、Langmuir international symposium 等の国際的な催しを開催するとともに、コロイド、界面化学分野において著しい活躍をされておられる、あるいは将来この分野での活躍が期待される著名な研究者に対する国際賞を毎年討論会で授与し、国際的なプレゼンスを高めてきました。コロナ禍にあっても、科学の歩み、国際交流は止めたいいけないとの意思の下、第72回コロイドおよび界面化学討論会におきまして、国際シンポジウムを2021年9月21日(火)にオンライン形式で開催しました。

開催内容

部会国際交流委員会の瀧上隆智委員長(九州大学)、蟹江澄志副委員長(東北大学)、筆者が主体となって国際シンポジウムを企画しました。

プログラム編成にあたり、コロイド・界面化学分野の最新の話題を、基礎に基づき深く活発に議論できるよう、若手、中堅の研究者を中心に、基調講演、招待講演を設けました。また、参加費無料とすることで、どなたにも参加していただきやすい環境を整えました。

基調講演は、長崎幸夫先生(日本)、Erica Wanless 先生(オーストラリア)、

Nicolas Vogel 先生(ドイツ)からいただき、バイオマテリアル、ソフト界面、コロイド集合体について、ご自身の研究を紹介していただくとともにそれぞれの研究分野の将来について議論しました。依頼講演については、国際交流員会で、国際的に活躍している若手研究者を中心に候補者を選び、講演依頼をしました。どれほどの方に講演を受けていただけるのか不安でしたが、蓋を開けてみると、予定の合わなかった方がおられたものの90%以上の方からご快諾をいただきました。その結果、20名の講演者に依頼講演をしていただくことになりました。さらに一般講演でも12件の講演申込みがあり、当初1会場の予定を3会場に分けて開催することになりました。朝から夕方まで素晴らしい研究発表と熱のこもった討論が展開され、非常に活気のあるシンポジウムになりました。

休憩時間に、参加者間で会話が自然と始まり、講演開始時刻を迎えてもお話を続けたいという雰囲気もありました。対面での学会と同じだと微笑ましく思うと



集合写真



Wanless 先生の基調講演

ともに、オンライン開催においても、休憩時間を長めに取り、会話用の時間・部屋を設けるなど、参加者が交流を図りやすい工夫を今後していければと感じました。

最終的に、参加者数は11カ国(台湾、韓国、タイ、ベトナム、オーストラリア、ニュージーランド、イタリア、イギリス、ベルギー、アメリカ、日本)から53名(最大入室者数)で盛会裡に終えることができました。

おわりに

最後に、このシンポジウムに参加された皆様、運営にご協力いただいた皆様にこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。また、2022年6月26~29日にオーストラリアのブリスベンにて、コロイド界面分野における重要な国際学会 International Association of Colloid and Interface Scientists Conference (IACIS2022) が開催されます。コロナ禍が明け、対面で濃密な国際交流が展開できることを楽しみにしています。

〔国際交流員会 藤井秀司(大阪工業大学)〕

© 2022 The Chemical Society of Japan